

**平成 29 年度 第 3 回 環境基本計画評価検討部会
会議録（案）**

日 時 平成 30 年 3 月 23 日（金） 午後 13 時 15 分～14 時 20 分

場 所 職員会館かもがわ 第一会議室

出席者 小幡部会長，板倉委員，窪田委員，小山委員

欠席者 綾野委員，大久保委員，中野委員

内容

1 開会

- ・村中環境企画部長 挨拶

2 議題

**（１）「京都市環境基本計画 年次報告書 環境レポート（案）～平成 28 年度事業実績～」
について**

- ・事務局から，資料 1 に基づき説明

（小幡部会長）前回からの修正について，報告いただいた。これ以外に，修正や疑問のある点等，あるいは全体の感想も含めてご意見を伺えればと思う。どなたからでも結構なのでよろしくをお願いしたい。

（小山委員）14 頁の図 4.12 について，自動車を示す緑の部分が年々減っていると良いということだと思うが，数字に隠れてグラフが一部見えなくなっている。せっかく減っているのが，増えているように見える。

（事務局）他のグラフを含め，最終の資料では見やすく整える予定である。

（小山委員）39 頁の「他都市との連携及び国際的な取組の推進」の「（２）進捗状況」は，まとめの記載だけで良いのか。（１）が取組と進捗状況ということなのかと思ったのだが，そういう訳ではないのか。

（事務局）進捗状況は，指標があるものについては，その結果や分析を記載していたが，ここでは指標がないため，記載を省略した。違和感があるため，「（２）進捗状況」のタイトルを削除したいと思う。

（小幡部会長）内容については，写真も入って良いと思うが，これをホームページでどれくらいの人が見るか。審議会には配るのか。

（事務局）特に冊子にはしていない。データをホームページにアップする。せっかく新たな環境基本計画の報告ということで作成したので，次年度以降は広報の方法も検討していきたい。

（窪田委員）前回の指摘事項を取り入れていただいて良いと思う。

（小幡部会長）皆さん，これで良いという意見なので，最後の修正を反映いただき，これをもって環境レポートとして確定させていただいてよろしいか。

（事務局）欠席委員も含め，最終版を確認いただき，その後ホームページにて公表する形とし

たい。

(2) 平成 29 年度京都市環境基本計画市民アンケート調査結果について

・事務局から、資料 2 に基づき説明

(小幡部会長) 選択肢を「どちらかといえばそう感じる」、「どちらかといえばそう感じない」、「分からない」に改めたことで、傾向が少しははっきりしたとを感じる。生物多様性や環境教育・学習に関する実感が低い一方で、ごみの分野は実感度が高い。平成 28 年度と平成 29 年度で「そう感じない」の割合を比べると、平成 29 年度で倍くらいに増えているようなものもあるが、原因は何か。

(事務局) 平成 28 年度の「どちらとも言えない」の回答者の割合が、平成 29 年度で「そう感じない」、「どちらかといえばそう感じない」に動いたのではないかと推察される。

(小幡部会長) 平成 28 年度と平成 29 年度では、アンケート回答者は異なるのか。

(事務局) 「「生物多様性」という言葉を知っているか」という質問項目については、平成 28 年度も「どちらとも言えない」の選択肢がなく、平成 29 年度とほぼ同じ結果となっている。アンケート回答者は異なるが、傾向として大きく差異があるという訳ではないと考えられる。

(小幡部会長) ごみに関してはものすごく意識が高い。行動も進んでいる。

(窪田委員) 8 頁、9 頁辺りの環境教育に関する質問項目や、8 頁の一番下の「環境学習、環境保全活動の機会が増えているか」、という質問項目も、「どちらとも言えない」と回答した方がほぼ「どちらかといえばそう感じない」に振れているということなのか。今回のアンケート調査は、元々が「どちらでもない」という中庸的な回答を排除して、より鮮明化させようという狙いがあった。その狙いがはまった結果だと思う。しかし、施策を進めていく上では、課題は大きくなった気がする。特に環境教育・学習については、非常に課題が大きいという印象がある。

(事務局) 9 頁の「どのような環境教育・学習や環境保全活動に参加したいか」という質問項目で、19.5%の方が参加したくないという回答をしている。無関心層にどう関心を持たせるかということも課題と感じている。

(窪田委員) これとは直接は関係ないが、商工会議所の事業の紹介をしたい。企業の方をお願いをして、これまで 15 年程、小学生を対象に出前事業で、いわゆる環境教育を実施している。昨年も、24 の企業に協力してもらい、京都市内 40 校を超える箇所での授業をした。京都市でも 1 年前に「京都市環境教育・学習基本指針」を策定していただき、子供だけではなく、全世代に対して環境教育・学習を実施していくことが示された。商工会議所としても、その一端で、小学生向けの教育を積極的にやろうということで継続しているが、小学生も、英語や総合学習など、取り上げないといけないテーマが非常に増えてきていて、現場では、なかなか授業の時間を確保できない状況になっており、今年度は昨年度よりも、実施校が減った。私どもとすると、せっかく指針を示していただいているが、現場でそれを実現できないジレンマを感じている。このアンケートは 15 歳以上なので、今申し上げた小学校の取組は対象となっていないと思うが、今後、環境学習について、全世代に対し

てより強力に取組を進めていただけると嬉しい。

(小幡部会長) アンケートの調査対象について、50 歳以上が 450 サンプルくらいということで、半数を占めている。京都市の住民基本台帳とほぼ同じ比率になっているということだと思うが、この世代が傾くと環境教育に影響が少しは出てくるかと思う。致し方ないというところもあるが。教育委員会では取組状況や実績の把握等を行っていないのか。

(事務局) 確認する。教育委員会は、環境教育よりも ESD に力を入れられていると聞かすが、何かしら把握されている可能性はある。

(小幡部会長) もう 1 つ気になったのは、4 頁の「空気や河川はきれいに保たれていると感じるか」という質問項目で、河川におけるごみの散乱という回答が一番多くなっているところである。昨年度も多かったが、河川は汚れているのか。板倉委員、いかがか。

(板倉委員) 今日鴨川を歩いていた。雨の影響で濁っているということもあるが、気になるのは、結局プラスチックごみである。増水した時にひっかかり、水が減ったら、木の枝や河川の淵のところに残ったりする。中洲のところに、多くのプラスチックが残っているため、すぐ目立つ。

(小幡部会長) そういう意味で、これは高いのか。

(板倉委員) 化学的な汚染というのは、もうほとんどない。30 年、40 年前の鴨川には、染色排水が全部流れて紫色であったが、今はほとんど下水を通しており、各工場は処理施設を付けている。また、合併浄化槽がほとんどなくなり、6 万機あった浄化槽も、ほとんどゼロに近い。廃プラスチックなどの見た目で分かるごみの影響が大きいのではないのか。

(小幡部会長) 京都市では、河川におけるごみの清掃の取組は行っているのか。

(事務局) 公による河川の管理以外に、地元の方が定期的に清掃されているところもある。やっていたのを見ても、相当ごみが上がってきている。大多数を占めるかは分らないが、最近では、カラスが河原にごみを持って行くこともあると地元の方から聞いたことがある。

(小幡部会長) 感じたところがあったので申し上げた。また、2 頁の「徒歩や自転車、公共交通機関優先利用の取組が進んでいると感じない理由は何か」の結果だが、歩くまち京都を宣伝している割には、実態が伴っていない。平成 30 年度は、観光客の利用も含めてアンケート調査を行うことも考えているか。毎年変えると比較が難しくなるかとは思いますが。観光客の利用は多いのか。

(事務局) レンタサイクルを活用されている観光客の方が増えているかどうかは、確認してみないと分からない。

(窪田委員) 観光客も、公共交通が主たる移動手段になっている。最近言われるのが、市バスが観光客で混雑し、キャリアカートもバスの中に置いてスペースがなく、市民の方が乗れないということである。観光地に対するルート案内では、市バスと地下鉄を中心にアナウンスされるケースが非常に多いが、観光振興の観点からも、JR や京阪電鉄等の民営交通をもっと組み合わせて、外国人を含めた観光客に案内すると良いのではないのか。そうすることで、市バスも、市民が乗れるスペースも確保できてくると思われるので、京都市当局に対しても意見を申し上げているところである。また、比較するデータがあまりないと思うが、パークアンドライドやカーシェアリングに関して、21%の方が回答しているという

のは、意外に多いと感じる。

(板倉委員) 意外と多い。商業委員会の京都駅ビルの駐車場の調査で、パークアンドライドをどれくらい実施しているかに関して聞いたものがあり、数値が大きくて驚いた。長岡や高槻で駐車している。認知度が上がっているのは驚いている。パークアンドライドの人は確実に増えている。

(小幡部会長) 交通政策は、色々されていると思うが、今後の取組として何を考えているのか。(事務局) パークアンドライドは、様々なところに場所を借りながら、実験を行っている。

(窪田委員) 最近は、京都市内だけではなく、長岡や大津にも設置されている。自動車交通の多さで、今問題になっているのが、観光バスである。特に観光シーズンの時に、観光バスを止める駐車場がない。特に、遠方から来た貸し切りバスは駐車場を確保できず、お客さんを降ろした後、その間ずっと循環している。バスの駐車場の容量が全然足りず、交通渋滞を招く大きな要因になっていると聞く。

(小幡部会長) これは京都の永遠の課題である。

(窪田委員) 自動車交通に関しては、容量を超えている状況が明白である。

(小山委員) 公共交通機関優先と実感していない人は、おそらくこれは自分が乗っている車でなく、何のせいで進んでいないと思うかということに回答しているのだろうと思う。何によって自動車の交通量が増えているとイメージしているのかが分かれば、おもしろい。観光バスが多すぎると思っているかもしれないし、市外からの自家用車がもっと入ってこなくなれば良いと思っているのかもしれない。

(小幡部会長) 自動車が多いと感じるのは、観光バスか、自家用車か、貨物か、どれが多いと感じているのかについて、アンケートを行えば、理由や種別が分かるのではないか。

(小山委員) タクシー、市バスのようないつも走っているバス、観光バス、業者の商用車、自家用車等、何をイメージして答えているのかが分かる。分かっても、その後、対策につなげられるかは分からないが。

(小幡部会長) 平成 28 年度の「徒歩や自動車、公共交通機関を優先した移動手段を取っているか」の結果について、「ある程度取り組んでいる」を入れると公共交通機関の優先利用は 80%を超えるが、ある程度がどれくらいか、これが問題である。

(板倉委員) 交通局の 1 日乗車券の取組については、値段は上がったが、良いことをやったと評価している。地下鉄もバスも、安い値段で、1 日中自由に乗れる。もっと観光客にアピールすべきである。交通局は積極的に、公共交通機関への誘導を行っており、岡崎周辺を循環するでループの小さなマイクロバスも走っている。色々工夫はされているが、観光客にはあまり伝わっていない。

(小幡部会長) 2 頁の平成 29 年度の「徒歩や自動車、公共交通機関優先利用の取組が年々進んでいると感じるか」の結果について、「どちらかといえばそう感じない」、「そう感じない」で、半分以上を占めている。市としてどのように感じているか、伺いたい。

(事務局) 結構古くから取り組んでいるので、半分以上が「そう感じない」、もしくは「分からない」というのは意外である。

(小幡部会長) 先ほど、板倉委員がおっしゃったように、色々取組をされていても、それが広く伝わっていないということもあるかもしれない。

(小山委員) 「年々進んでいるか」と聞いているため、余計にこのような結果が出るのではないかな。今、ある程度達成されていても、そこから更に改善されないと、年々進んでいるとは感じてもらえない。それがハードルを上げているような気がする。もうこれ以上、できることがないと思われていれば、そう感じないのかもしれない。

(小幡部会長) このアンケートの全体のまとめを、1 頁か半頁くらいにまとめていただきたい。課題や頑張っている点など、全体の評価をお願いしたいが、どうか。

(事務局) 今回は、平成 29 年度のアンケート調査結果をいち早く報告させていただくということで、説明を行った。来年度のレポートについては、年度末ではなく早い段階で作成し、公表できるように進めていきたいと思っている。夏くらいを目途に、レポート案という形でまとめ、部会を開催させていただく予定である。その際には、もう少し詳細に結果を分析し、資料として取りまとめさせていただく。

(小幡部会長) その際には、年齢別、居住区別の特徴も出てくるのか。

(事務局) 公共交通優先の取組にしても、観光地のエリア等で特徴的な結果が出ているのか、それとも、全体的な傾向であるかどうかというところがある。もしかすると、居住地域の傾向が出ている部分もあるのではないかと考えている。

(小幡部会長) より細かい分析ができる資料は、また配布されるということである。毎年度、評価していくのは大変であるが、他都市では、主観的指標による評価はどこもやっていないことだと思う。他に何かないか。

(窪田委員) 特にはない。

(小幡部会長) それでは、本日の議題を終了する。

3 閉会